

横田地域学校再編統合推進委員会
第3回通学部会

日時：令和5年2月24日（金）19:00～20:10
場所：雲州算盤伝統産業会館2階 大研修室

部長あいさつ

〔協議事項〕

1 通学方法にかかる意見交換

（資料1 奥出雲交通との検討状況【2月20日現在】）

（出席委員 発言要旨）

- ・バス停へ行く方法として、通学班を編成するのか個人でそれぞれ行くのかなど、どこが調整するのか。
→ 事務局として現在案があるわけではないが、学校現場と相談しながら決めていくことになると想定。
- ・下校時、児童がどのバスに乗るか間違わないような対応をするとの発言があったが、奥出雲交通が対応できるのか。
→ 具体的な協議はこれからだが、問題なく対応できると認識している。
- ・バスが同時に発着すると児童が混乱したり、乗りづらいと思われる。地区ごとの統合小発着時刻をずらすことが可能か。
→ 調整可能である。
- ・調整可能の範囲はどの程度か。「バス停を増やす」「バスの増便」「発着時刻の大幅な変更」などが可能という意味か。
→ 現在検討案と示している内容を大きく拡充することは、困難と認識している。バス停については、現在フリー乗降であるのでバス停を増やさなくても対応できる部分もあるが、運行時間にも影響することなので乗降方法については今後検討が必要。

2 放課後児童クラブ運営について（情報共有）

- ・児童用スペース確保のための空き校舎利用の場合の課題
- ・放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体運営事例（文部科学省資料）

【事務局説明要旨】

- ・以前、「児童の体格に対し、幼稚園施設のサイズが合っていない」との指摘をいただいた。例えば「空き校舎で放課後児童クラブを運営する」ことを想定した場合、幼稚園と一体的な運営は不可能なので現状より人員を多く配置する必要があるなどの課題が出てくる。場合によっては、幼稚園とは別の運営母体による運営を検討する必要もあるが、受け手になってもらえる事業者候補が町内にあるのかなど更なる課題が出てくる可能性がある。

- ・国は、資料のとおり文部科学省所管の「放課後子ども教室」と厚生労働省所管の「放課後児童クラブ」の一体的運営や学校施設を活用した放課後の児童受け皿の考え方を示している。
- ・町としては、昨年度来、校区に対して「放課後は各校区の児童クラブで過ごすことを想定している」と説明している。ただ、児童、保護者にとって何がより良い方法なのか様々な検討をする必要はあると認識している。ご意見やご感想をいただけると助かる。

(出席委員 発言要旨)

- ・放課後子ども教室は、学校の先生が運営されるのか。
 - 学校の先生ではなく、地域人材で対応することになる。現在、高尾小で実施しているが町雇用会計年度職員が有償ボランティアで対応している。
放課後児童クラブ≡共働き家庭の児童の受け皿、放課後子ども教室≡全ての児童を対象にした放課後活動の場、というイメージだが、低学年の終礼時刻は早いので、例えば5時までは放課後子ども教室で過ごし、5時以降は放課後児童クラブで過ごせるような一体的な運営をする方法も考えられる。
- ・空き校舎を活用するのはよいと思うが、使用頻度が上がれば維持管理をどうするかが課題になる。どこがその役割を担うのか見通しがあるのか。
 - 跡地利用については、これから地域の方と具体的に検討を進めることになると想定。昨年度の校区への説明でも、空き校舎の公民館活用などを例示したが、地域の思いに沿って検討することになる。その協議は教育委員会部局ではなく、町長部局で進める予定。
- ・現在特別支援員として勤務されている町雇用職員を、再編後には放課後子ども教室を担っていただけるようにできないものか。
 - 例えば、公民館で放課後子ども教室のような活動をしようと思っても、現在の館長と主事の2名体制では対応が難しい。統合小学校と地域をつなぐコーディネーターなどの人員配置については、町教委としては必要と認識している。

【事務局補足】

- ・再編後、児童数は減少し続け、再編から数年経つと「各地区に戻ると同学年が3～4人だけで児童クラブで過ごす」ような状況が発生することも見込まれる。保護者の立場としては、どのような運営方法がよいのかご意見をいただきたい。

(出席委員 発言要旨)

- ・幼児園児がいる家庭は、迎えを一回で終えたいのではないか。小学生のみの家庭であれば、放課後子ども教室のみで十分かもしれない。
- ・バスの発着時刻にもよるが、例えば4時便で各地区に戻る→保護者が5時半頃に迎えに行くであると、子どもの活動時間が移動時間によって少なくなり活動も途切れるので、5時ぐらいいまで統合小学校近くの放課後子ども教室で過ごすのはありだと思う。
- ・途中から放課後児童クラブを1ヶ所にまとめるよりも、最初から1ヶ所で運営した方がよいと思う。保護者アンケートをして決めたらどうか。
- ・通学バスを含め、鳥上小校区は令和6年度どうなるのか。

- 通学バスは登下校とも令和6年4月から対応可能。放課後児童クラブについて、横田小児童に準ずるため、令和6年度は横田幼稚園での受け入れと見込まれる。
- ・ 鳥上小校区としては、どこで放課後児童クラブが運営されるのか、放課後子ども教室を現鳥上小校舎で運営できるのかなどがはっきりわからないので、バスの時刻表だけ示されても判断できない。
- ・ 町として「放課後を使った学習支援」と「放課後の児童見守り」のどちらに重きを置いているのか。小学生だけでなく、中学生や高校生の居場所づくりなど広域的な福祉活動も視野に入れているのか。町の方針が1つ決まっていると話が進めやすいと思う。再編のタイミングで見守りの場所も1つにした方がよいと個人的には思うが・・・
 - どちらに重きを置くというわけではなく、どちらも活用ながら児童の受け皿となる体制を構築する可能性について情報提供をしたところ。
- ・ 統合小学校の余裕教室を活用して放課後児童クラブ、放課後子ども教室を行う場合、どのような運営になるのか。
 - 5時までは放課後子ども教室、その後は放課後児童クラブとしての運営が見込まれる。どちらを運営する場合も、施設管理の面から使用するエリアを明確に区切る必要はある。
- ・ 議論が堂々巡りにならないよう、保護者アンケート等を実施した上で、町の考え方を明確した方がいい。
- ・ 仮に放課後児童クラブが1ヶ所になる場合、想定される利用人数を受け入れることが出来るのか。
 - 横田地域全体の年間利用がおよそ50名、一時利用を合わせると最大100名程度見込まれる。児童1人あたりに必要な面積基準が示されており、 $1.65\text{ m}^2 \times 100\text{ 名} = 165\text{ m}^2$ の施設が必要となるが、例えば横田コミセン2階（図書室や会議室など）の合計面積は180 m^2 であり、候補の一つにはなると思われる。

3. 今後の予定

- ・ 3月2日（木） 第3回全体会にて状況報告
- ・ 令和5年度第1回通学部会は、5月頃を予定